

自然との新しい調和

冷凍と空調

JRAIA JOURNAL

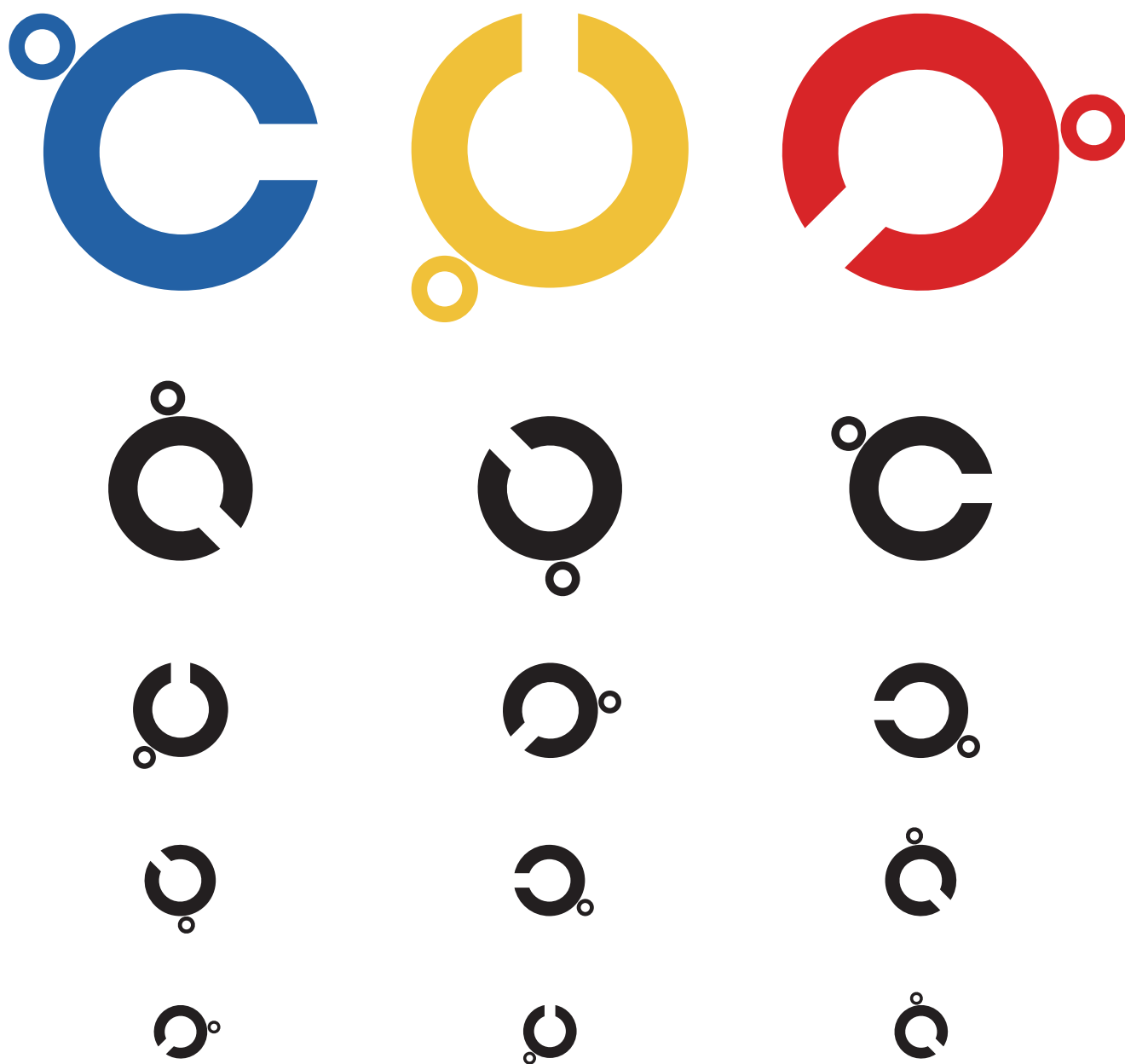
新年特別号

No.627

冷凍空調は、私たちの暮らしの中のあらゆるところで活躍しています。



温度の未来がどこまで見える？



世界を支える最新の冷熱技術

ヒーバック&アール ジャパン2014 冷凍・空調・暖房展

2014. 1. 28(Tue) ▶ 31 (Fri) 東京ビッグサイト www.jraia.or.jp 主催：一般社団法人 日本冷凍空調工業会
The Japan Refrigeration and Air Conditioning Industry Association(JRAIA)

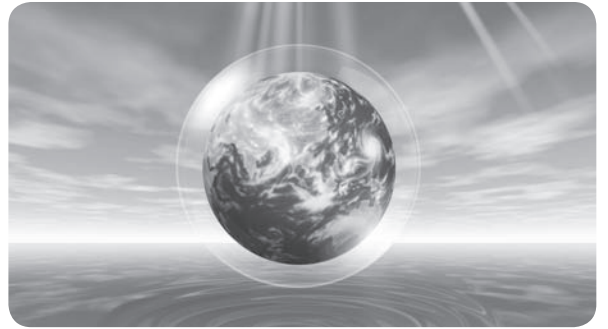


自然との新しい調和

冷凍と空調

JRAIA JOURNAL

NO.627 新年特別号



Contents

HVAC&R JAPAN 2014	2
年頭所感	
一般社団法人日本冷凍空調工業会 会長 岡田信也.....	4
工業会レポート	
平成26年賀詞交歓会を開催	7
岡田会長のあいさつ.....	7
須藤産業機械課長の祝辞.....	11
環境と新冷媒 国際シンポジウム2014	15





年頭所感

一般社団法人 日本冷凍空調工業会 会長 岡田慎也



<岡田会長>

年頭にあたり謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

旧年中は、皆さま方より格別なるご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

1. 平成 25 年を振り返って

発足もない新たな政権下で迎えた平成 25 年は、日本のみならず全世界各地において希望の灯がともされた年であったのではないのでしょうか。

日本では 3 本の矢の成長戦略の下、積極的な経済・金融政策が打ち出され、円安や株高といった効果が生まれました。日銀黒田総裁による“(アベノミクスにより)日本経済は緩やかに回復”とのコメントは記憶に新しく、そして何より 2020 年夏季オリンピック開催地が東京に決定したことは、期待される経済効果のみならず、老若男女問わず日本に大きな期待と明るさをもたらしました。

世界に目を向けますと、欧州の金融不安や中東での政情不安、極東における領土問題など解決を待つ問題が顕在するも、米国では景気回復の兆しも見られ、世界経済は一部に底堅さも望まれる年でした。

こうした環境の下、平成 25 年度の当工業会関連製品は続く節電志向の高まりを受け、より省エネ性の高い最新モデルへの買い替え・更新需要が促進される結果となり、上半期の国内向け出荷状況は自主統計によると家庭用エアコン 578.8 万台(対前年比 104%)、業務用エアコン 43.8 万台(同 100%)と 4 年連続で前年を上回る出荷実績となりました。また、電力事情の影響からガスエンジンヒートポンプエアコンの出荷が大幅に増加し(1.3 万台、同 104%)、昨年度の当工業会の出荷金額総計は 1 兆 9,870 億円を超え、前年を 4% 上回る結果となりました。なお、上期出荷額は 1 兆 1,027 億円(同 102%)、また上期輸出額は 1,775 億円(同 105%)となっております。

2. 平成 26 年を迎えるにあたって

平成 26 年の先行きは、欧州や中国などの対外経済環境の不確定要因、中東の政情不安定などリスクは依然として存在しますが、多くの国々の経済再構築へ向けての取り組み、そしてわが国の財政政策や成長戦略、産業競争力強化の政策が奏功し、復興需要、公共投資の増加など、景気回復へと推移していくものと期待を寄せております。

国内ではまた、原発問題や原油、天然ガス価格の高騰から、エネルギーの安定供給に対する不安が続く中、国全体としての地球環境課題への的確な対応と産業の活性化の両立は一層強く求められ、当工業会としてもこれらの状況を踏まえ、多くの課題に適切に取り組み業界の一層の発展に資するよう努めてまいります。

さて、平成 26 年の当工業会の施策につきましては、以下の 4 点について特に重点を置いて取り組んでいきたいと考えております。

-
- I. 環境問題への適切な対応
 - II. 規格・基準への対応
 - III. 安全性への取り組み
 - IV. グローバル化の推進・強化

I. 環境問題への適切な対応

COP19において、日本は京都議定書第一約束期間の6%削減目標達成が発表されました。地球温暖化防止対策は世界各地で緊急課題です。温暖化効果ガスの大幅な削減が求められていますが、冷媒の規制が強化される動きもあり、当業界事業の持続的発展に大きく影響を与えることは必至であり、以下の取り組みを通じ的確に対応していきます。

(1) 地球温暖化防止対策への対応

「HFCの責任ある使用原則」の精神に則り、行政の協力も得ながら、使用時の冷媒漏えいの削減、整備時・廃棄時の冷媒回収の向上を進めるとともに、次世代新冷媒・代替技術の可能性と機器の低GWP化を本年も積極的に追求していきます。さらに、政府審議会の「今後のフロン類等対策の方向性」によるフロン法改正に基づく冷媒の漏えい点検管理制度などの法整備化について、行政各機関と協力して取り組みます。また、昨年一般社団法人オゾン層・気候保護産業協会(JICOP)、一般社団法人フロン回収推進産業協議会(INFREP)および一般財団法人日本冷媒・環境保全機構(JRECO)の三団体が冷媒管理の体制強化を目的に統合化しましたが、これらの団体への支援活動も引き続き行います。

(2) 次世代冷媒代替技術の検討

温暖化係数の低い次世代冷媒の開発は当業界にとって大きな課題です。HFC冷媒がモントリオール議定書の対象ガスとなり、段階的な消費規制をかけるといった案も国際的に浮上しています。昨今、国際的に権威のあるASHRAEの技術基準では微燃性のカテゴリー(A2L)に分類される、温暖化係数が相対的に低い次世代冷媒が注目を集めていますが、世界各地の冷媒に関する動向を注視し、当工業会としてはこれらの低GWP、自然冷媒への転換促進に向け、機器開発や微燃性冷媒のカテゴリー(A2L)の代表製品でのリスク評価について積極的に実施していきます。

(3) エネルギー消費の削減と高効率機器の開発・提供

製品・機器のエネルギー消費の削減に向けた高効率機器の開発を促進し、それらの情報を常に提供するという理念の下活動いたします。新たに省エネ法の対象となった業務用冷蔵庫やショーケースなどの製品・機器についても状況を的確に把握し対応、さらに温暖化防止の中期目標計画などについて、製品・機器に課せられる目標が適切なものとなるよう、技術的資料を整備し計画策定に協力してまいります。

II. 規格・基準への対応

当工業会の扱う製品・機器は、多くがエネルギー多消費型であり、よって当工業会は日本の温暖化ガス削減に対し大きな責任があると認識しています。冷凍空調分野に関連する国際規格は多岐にわたり、国際規格は国内規格と密接に関係しています。よって当工業会の扱う製品・機器にとっては国際規格への対応が一層重要となり、当工業会はさまざまな団体で対応検討が進められています。業界としての意見を的確に反映していくため、当工業会は業界意見を取りまとめ、JRA規格などの業界の標準化作業、未整備分野の標準化および国際規格、JIS規格の補完へ向けて的確に政策判断し活動してまいります。特にISOにおいては審議中断・遅延中の規格もあり、計画的な国際的活動、幹事国や関



係団体への働きかけを通じ、これらの規格の迅速な制定化に向け活動してまいります。

Ⅲ. 安全性への取り組み

ユーザーの皆さまが安心して製品・機器を使用できるよう、電気用品安全法の改正の大幅な改善の業界方針の作成と情報の周知徹底を図り、また現行および今後のフルオロカーボン以外の冷媒使用・開発実態に沿った、例えば固有の安全基準など、実情に見合った指針作りを行うなど、安全確保に努めます。消費者の皆さまに対しても、引き続き機器・製品の正しい使用の啓発を推進してまいります。

Ⅳ. グローバル化の推進・強化

地球環境問題は年々深刻さを増し、種々の課題への対応策は規格の整備などを伴い、各地域で検討・実施されています。当工業会が扱う機器・製品の数多くは海外へも進出しており、このため各地域・国の規格・規制に関する最新情報のタイムリーな入手と分析、そして的確な対応が極めて重要です。

特に、欧州Fガス規制の改定やモンテリオール議定書締約国会合(MOP)におけるHFC冷媒の生産・消費規制に関するOEWG(公開作業部会)での議論、CCAC(HFC冷媒などの排出削減に向け米国が中心となって立ち上げた国際イニシアチブ)など、わが国の冷凍空調業界への影響が大きい国際的な議論が、本年も多く予定されています。

また、当工業会欧州事務所を通じた最新情報の収集と分析、対応活動の継続的な推進や、主要地域・国の冷凍空調工業会の国際的な交流組織ICARHMA(冷凍空調工業会国際評議会)などでの情報・意見交換を通じ、相互の連携を強化するとともに、わが国の冷凍空調業界を代表し、立場や考え方を国際社会に対して表明していきたいと考えております。

1月28日より開催されますHVAC&R JAPAN 2014では、インバーター技術、ヒートポンプ技術といった日本の優れた技術を、グローバル市場に対し積極的に広める良い機会にもなります。さらに引き続き、新興国・途上国におけるHCFC代替冷媒の選択や性能評価基準の構築などに向けた連携を積極的に行い、世界規模でのエネルギー消費削減と環境保護の両面から国際社会の期待に応えていきたいと考えております。

3. 今後の業界の活動方針について

当工業会が扱う製品・機器は日本の基幹産業の一つです。家庭用、産業用、業務用あらゆる空間を整える空調機として、また食品の物流・保存に関わる冷凍・冷蔵機器、そして先端医療分野など、幅広い分野で不可欠な存在です。また、冷凍・空調産業は、新興国の経済発展や生活環境向上に対するニーズ、食品流通分野の市場拡大などにより、世界的にはまだ倍以上の成長潜在力を持っています。同時に、地球温暖化に対する責任は大きく、当工業会は今後も地球環境問題への対応を最優先課題と捉え、エネルギー消費削減と環境配慮の両面から、引き続き社会の期待に応えてまいりたいと考えております。

当工業会は会員の皆さまの会費によって運営されています。今後とも、ユーザーの皆さまに安心して冷凍空調製品・機器をお使いいただけるよう取り組み、また会員の皆さまとの密接な連携を基盤に、当工業会を挙げて諸課題を解決し、日本の産業競争力・国力の向上に努めてまいります。

本年も、皆さま方のお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

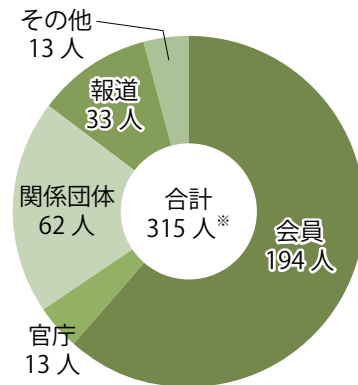


平成 26 年賀詞交歓会を開催



工業会では 2014 年 1 月 10 日、東京マリオットホテルにおいて平成 26 年賀詞交歓会を開催しました。当日は、来賓に経済産業省の須藤治産業機械課長、三木健化学物質管理課長、福田敦史省エネルギー対策課長をお迎えし、関係各方面からの約 350 人の参加者の皆さまとともに、新しい年に向けての決意を新たにしました。

賀詞交歓会での岡田会長のあいさつと、須藤産業機械課長の祝辞を紹介します。



※名刺をカウントした人数。名刺なしでの来場者を含めると、330～350人ほどとなる。

<賀詞交歓会出席者内訳>

岡田会長のあいさつ

年頭にあたり謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

開会に先立ち、本日はご多忙の中、経済産業省産業機械課 須藤課長様、化学物質管理課 三木課長様、省エネルギー対策課 福田課長様をはじめ多数のご来賓、理事、そして会員の皆さま方にお集まりいただきありがとうございます。本年も何とぞよろしく願いいたします。

さて、発足まもない新たな政権下で迎えた平成 25 年は、日本のみならず全世界各地において希望の灯がともされた年であったのではないのでしょうか。

日本では 3 本の矢の成長戦略の下、積極的な経済・金融政策が打ち出され、その効果は日銀黒田総裁の“日本経済は緩やかに回復”とのコメントにも見られました。そして何より 2020 年夏季オリンピック開催地が東京に決定したことは、期待される経済効果のみならず、老若男女問わず日本に大きな期待と明るさをもたらしました。

一方、世界では、解決を待つ問題が顕在するも、米国では景気回復の兆しも見られ、世界経済は一部に底堅さも望まれる年でした。



<岡田会長>



こうした環境の下、当工業会関連製品は節電志向の高まりを受け、より省エネ性の高い最新モデルへの買い替え・更新需要が促進されました。また電力事情の影響からガスエンジンヒートポンプエアコンの出荷も大幅に増加しました。そして消費税増税前の駆け込み需要の増加、ならびに円安で潤った企業による設備投資の活発化も受け、結果、平成 25 年度の当工業会の出荷金額総計は 2 兆円台に達するものと見込んでおります。さらに、ルームエアコンの出荷台数については「夢の 900 万台」達成の可能性も出てきました。

本年は、多くの国々の経済再構築へ向けての取り組み、そしてわが国の財政政策や成長戦略、産業競争力強化の政策が奏功し、復興需要、公共投資の増加など、景気回復へといっそう推移していくものと期待を寄せております。

当工業会としましても、エネルギーの安定供給に対する不安が続き、また国全体としての地球環境課題への対応と産業の活性化の両立が一層強く求められる中、種々の課題に適切に取り組み、業界の一層の発展に資するよう努める所存でございます。

さて、平成 26 年度の当工業会の施策につきましては、次の 4 点について特に重点を置いて取り組んでいきたいと考えております。

一つ目は環境問題への適切な対応です。

昨年 11 月にポーランドで開催されました COP19 において、日本は京都議定書第一約束期間の 6 % 削減目標達成が発表されました。温暖化ガ



< 賀詞交歓会会場内 1 >

スの大幅な削減に向け、当工業会は「HFCの責任ある使用原則」の精神に則り、行政の協力も得ながら、使用時の冷媒漏えいの削減、整備時・廃棄時の冷媒回収の向上を進めてまいります。また、次世代新冷媒の可能性の追求、そして冷媒の一層の低GWP化の推進を本年も積極的に追求してまいります。

温暖化係数の低い次世代冷媒の開発は当業界にとって大きな課題です。HFC冷媒がモントリオール議定書の対象ガスとなり、段階的な消費規制をかけるといった案も国際的に浮上しています。昨今、国際的に権威のあるASHRAEの技術基準では微燃性のカテゴリー（A2L）に分類される、温暖化係数が相対的に低い次世代冷媒が注目を集めております。世界各国の冷媒に関する動向を注視し、当工業会としてはこれらの低GWP、自然冷媒への転換促進に向け、機器開発や微燃性冷媒のカテゴリー（A2L）の代表製品でのリスク評価について積極的に実施していきます。

さらに、エネルギー消費の削減に向けた高効率機器の開発を促進し、それらの情報提供を常に行い、国全体での一層の省エネに向けて活動いたします。なお、新たに省エネ法の対象となった業務用冷蔵庫やショーケースなどの製品・機器についても状況を的確に把握し対応してまいります。

二つ目は規格・基準への対応です。

冷凍空調分野に関連する国際規格は多岐にわたります。当工業会の扱う製品・機器の多くがますますグローバル化する中、国際規格への対応が一層重要となります。業界の意見を反映させるため、当工業会は業界意見を取りまとめ、またJRA規格などの業界の規格の標準化作業や未整備分野の標準化および国際規格、JIS規格の補完、ISO規格の迅速な制定化へ向け、的確に判断し活動してまいります。

三つ目は安全性への取り組みです。

ユーザーの皆さまが安心して製品・機器を使用できるよう、電気用品安全法の改正の大幅な改善の業界方針の作成と情報の周知徹底を図り、実情に見合った指針作りを行うなど、安全確保に努めるとともに、消費者の皆さまに対しても引き続き機器・製品の正しい使用の啓発活動を推進してまいります。

また不正な機器の改造や指定外の冷媒への入れ替えといった人的要因による事故も何件か報告されていますので、当工業会ではホームページ上などで注意喚起やパンフレット配布を通じ、安全にご使用いただけるように、一層努力をしていきたいと思っております。

四つ目はグローバル化の推進・強化です。

地球環境問題は年々深刻さを増し、種々の課題への対応策は規格の整備などを伴い、各地域で検討・実施されています。当工業会が扱う機器・製品の数多くはグローバル化が進んでおり、欧州Fガス規制の改定や排出権取引といった国家レベルの政策が私たちの業界へ及ぼす影響は非常に大きく、このため各地域・国の規格・規制に関する最新情報のタイムリーな



<賀詞交歓会参加者の方々>



<乾杯の音頭を取る井上副会長>

入手と分析、そして的確な対応が極めて重要です。

本年も引き続き当工業会欧州事務所を通じた最新情報の収集と分析、対応活動の継続的な推進や、主要地域・国の冷凍空調工業会の国際的な交流組織 ICARHMA などでの情報・意見交換を通じ、相互の連携を強化するとともに、わが国の冷凍空調業界を代表し、立場や考え方を国際社会に対して表明していきたいと考えております。

2014 年は一つ目に今月 28 日より HVAC&R JAPAN 2014 が開催され、そして 11 月には神戸シンポジウム（環境と新冷媒国際シンポジウム 2014）も開催されます。世界から有識者含めさまざまな専門家を前に、インバーター技術、ヒートポンプ技術といった日本の優れた技術を、グローバル市場に対し積極的に広める良い機会にもなります。加えて、世界の他の展示会なども利用し、また新興国・途上国における HCFC 代替冷媒の選択や性能評価基準の構築などに向けた連携も積極的に行い、世界規模でのエネルギー消費削減と環境保護の両面から国際社会の期待に応えていきたいと考えております。

当工業会が扱う製品・機器は日本の基幹産業の一つです。家庭用、産業用、業務用空調機として、また食品の物流・保存に関わる冷凍・冷蔵機器、そして先端医療分野など、幅広い分野で不可欠な存在です。また、冷凍・空調産業は、新興国の経済発展や生活環境向上に対するニーズ、食品流通分野の市場拡大により、世界的にはまだ倍以上の成長潜在力を持っています。同時に、地球温暖化に対する責任は大きく、当工業会は今後も地球環境問題への対応を最優先課題と捉え、エネルギー消費削減と環境配慮の両面から、引き続き社会の期待に応えてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、当工業会は会員の皆さまの会費によって運営されております。今後とも、ユーザーの皆さまに安心して冷凍空調製品・機器



<歓談する参加者の方々>

をお使いをいただけるよう取り組み、また会員の皆さまとの密接な連携を基盤に、当工業会を挙げて諸課題を解決し、日本の産業競争力・国力の向上に努めてまいります。本年も、皆さま方のなお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、開会にあたってのあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

須藤産業機械課長の祝辞

皆さま、あけましておめでとうございます。

ご紹介いただきました経済産業省の産業機械課長の須藤でございます。今日は経済産業省から化学物質管理課長、省エネ対策課長、情報家電戦略室長など多くの関係する課の課長、室長、職員が参加をさせていただいております。ありがとうございます。

さて、今年は午年です。転換の年だと言われております。これまで20年間続いてきた「物価は下がっていくんだ」、「せっかく良い製品を出しても過当競争の中で値崩れしていくんだ」、「頑張ってもお給料は上がっていかないんだ」。こういう世界に終止符を打つ年であります。今年こそ良い製品を作ってきてちゃんと利益が上がっていく、適正な価格で売っていく。そしてその利益が従業員の皆さまにも還元されていく。そういう良い循環を作っていく。そういう年にしなければならないと思っております。

先ほど岡田会長から「夢の900万台」というお話がございました。業績が良くなりかけている今だからこそ、さまざまな手を打って次世代の成長につなげていくということが必要だろうと思っております。

日冷工の昨年の活動を振り返ってみますと、昨年はフロン法の改正という中で、団体から業界から、さまざまなご提言をちょうだいしております。また、法律の施行に向けて、さまざまなご準備をされていらっしゃると思います。また地球環境問題ということでもいいますと、先ほど岡田会長のお話にもありましたけれども、例えば新冷媒への対応というようなことについても、業界団体としてあるいは各社として、さまざまな活動をされていらっしゃいます。さらには省エネのトップランナー制度ということで、冷凍ショーケースの検討が進められています。次に向けて、規制はある意味面倒くさいというところもありますが、必要などころもあります。これを良い意味で日本の競争力に変えていくというご努力をされています。

さらに国際的にみても、これはある意味防御といえるかと思いますが、ヨーロッパにおけるFガス規制の対応についても、業界としてちゃんと日本の声を届けに行くということもされておりました。こうしたまさに次世代に向けての活動を着々とされていらっしゃると思います。私も経済産業省も微力ではありますがけれども、昨年来、さまざまな補助金、センター設備の補助金、



<須藤産業機械課長>



ものづくり補助金、あるいはこれは経産省を超えますけれども金融対策といった政策をとりました。年末には産業競争力強化法が制定されました。

私ども行政の方も、今年は動く年、転機の年だと認識をしています。産業競争力強化法の施行日は、まだ正式には決まっていますが、霞が関のうわさでは1月20日とされています。1月20日以降の設備投資が、1月20日以降の事業再編が、1月20日以降の再生に向けたさまざまな規制緩和のご提案が、支援の対象になっていくということでもあります。

その中で一つだけご紹介させていただきますと、設備投資減税です。これもいろいろ報道されておりますが、今回の設備投資減税の特徴は、範囲が広がっていること、あるいは手続きが簡素化されていることでもあります。例えば皆さまが設備投資をするお立場でお考えいただければと思いますが、設備投資減税の対象になるかどうかというのは業界団体が証明書を発行するということとなります。皆さまがお客様の立場であれば、例えばロボット工業会の証明書を持った営業マンが、あるいは工作機械工業会の証明書を持った営業マンが、分析機器工業会の証明書を持った営業マンが、「これは減税対象になりますから買ってください」という形でいらっしゃるということになるかと思えます。買われた皆さんは、日本に投資をするということであれば、それを税務署に出せばそれがそのまま減税措置につながっていくということです。

また営業するお立場ということで考えてみますと、今までと全く設備投資減税はメーカー中心に考えられがちでございましたが、今回は流通など製造業以外のところも対象になっています。

売られる立場でいいますと、空調あるいはまさに冷凍冷蔵設備を流通業がさまざまお使いになりますけれども、こういったところにも、ぜひ、この減税制度をご活用いただきたいと思えます。こちらの方の証明書の発行団体はまさに日冷工ということですので、税法は適切に守っていた



<賀詞交歓会会場内 2>

だきつつ、柔軟に、ぜひ、バンバン発行していただきまして、お役立っていただきたいと思ひます。

私どもの声で日本の中にも投資ができる環境を、今一度作っていききたいという思ひであります。少し前はお金があったら海外に投資するというのが、なんとなく、当たり前という感じがありましたけれども、もう一度日本の中で投資をしていただけるようにしたいと思ひます。残念なことに、例えばまさに冷凍部門、空調部門というのは、「なんとか動いているので、そろそろ買い換えなきゃと思ひていても、なかなか新しいものに入れ変わらない」ということがございます。今回の設備投資減税は、各社の最新モデルを買った場合に対象になります。ぜひ日本の中で、更新投資をうまく生み出して、流通を含めもちろん製造業も対象になりますけれど、こういったところに積極的に売り込みをかけていただきたいと思ひております。

私も微力ではございますが、皆さま方が動いていくときの環境を整備するということは、積極的にやっていこうと思ひております。気持ちよく稼いでいただくための環境整備です。例えば、この中には規制緩和も含まれていると思ひます。

規制はそう簡単に変えられない部分もありますけれども、ぜひ議論の中で、知恵を生み出していききたいと思ひます。

皆さまのご努力と、私どもも精一杯努力をしてみりますので、これが両輪あいまって、まさに転機の年、午年が良い年になるというのを確信して、そしてまた、日冷工の今後のご発展、各企業のビジネスのご隆盛、ご参会の皆さまのご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、私からのお祝いのごあいさつとさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。ありがとうございます。



<賀詞交歓会会場内3>



<賀詞交歓会会場内4>

No. 627

2014

自然との新しい調和

冷凍と空調

JRAIA JOURNAL

平成 26 年 1 月末日発行（隔月 1 回末日発行）

昭和 35 年 4 月 9 日第 3 種郵便物認可

年間購読料 3,675 円（税・送料込）

《発行所》

一般社団法人 日本冷凍空調工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館

TEL.(03) 3432-1671 FAX.(03) 3438-0308

URL. <http://www.jraia.or.jp/>

《編集・発行人》 岸本 哲郎

《編集委員》

井上 あや 井上 誠 海老原 幸夫

川合 秀直 紀國谷 充男 木村 明史

後藤 まゆみ 西原 徹 原 敦宏

肥留川 淳 古田 雅彦 丸山 由美子

《編集制作担当》

田宮 篤 清水 あづさ 堤内 大貴

- ・本誌掲載記事の無断転載を禁じます。
- ・本誌は再生紙を使用しています。

編集後記

皆さま、あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

「新年の計は元旦にあり！」皆さんはどんな目標を立てましたか？
ン????……待てよ、こんなこと聞いているけれど、私自身、このところず～～と新年に
目標なんて立ててこなかったなあ \(\◎o◎)/

でも今年は、一応目標のようなものを立てました (^_^)v!

年が明けてから、友人と久しぶりに会ったときのことです。私が何気なく言った一言に、

「それいい!それ、私たちの今年の目標!」と彼女がすごく乗り気になってしまって、二人の
目標…約束事となりました。

まあ、無理せず頑張りすぎず、目標を目指します (^_^)

さて、隔月の発行となってから早一年。2回目の新年特別号、増刊号です。リニューアル後の

「冷凍と空調」が、少しは、読みやすいものになってきているといいたのですが…… ^_^;

今年は連載企画を考えています。どんなものかは「始まってからの楽しさ」ということに
しましょう (^_^)-☆

また、今年は1月末には「HVAC&R JAPAN 2014」、11月には「神戸シンポ（環境と新冷媒
国際シンポジウム2014）」を開催します。もちろん「冷凍と空調」でもご紹介しますが、皆さ
ま、どうぞ会場に足を運んでやってくださいませ m(_ _)m

というわけで、今年も工業会、そして「冷凍と空調」をよろしく願いいたします。

会員向けホームページからのお知らせ

● 「JRA 規格」のダウンロードについて

JRA 規格のすべてについて、概要を紹介。無料でダウンロードすることができます。

会員向けホームページのご案内

● 「冷凍と空調」はホームページでもご覧いただけます。

● 会社が一般社団法人日本冷凍空調工業会の正会員または賛助会員の方で、「冷凍と空調」の読者になっておられる方は、簡単な手続きでご覧いただけるようになります。

● 登録は、一般社団法人日本冷凍空調工業会の会員向けホームページの認証画面にある「登録申込み」をクリックし、必要事項を入力してください。委員会に参加されていない方は、備考欄に「冷凍と空調読者」と入力してください。

会員向けホームページ

URL <http://www.jraia.or.jp/member/>

● 「冷凍と空調」読者の方でも、会社が一般社団法人日本冷凍空調工業会の会員になられていない方は登録できませんので承知おきください。

「冷凍と空調」の最新号は一般向けホームページでもご覧いただけます！

※ 一般向けホームページでご覧いただけるのは、最新号のみで、バックナンバーはご覧いただけません。また、PDF でのダウンロードと印刷もできません。



環境と新冷媒 国際シンポジウム 2014

2014 11/20 木 ~ 21 金 神戸国際会議場
メインホール

キーワード

- 環境
- 新冷媒
- 微燃性冷媒の安全性分析
- 圧縮機・潤滑油
- 省エネルギー
- エネルギー管理 (EMS)
- デシカント空調

日英
同時通訳

主催

一般社団法人 日本冷凍空調工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 201

TEL: 03-3432-1671 FAX: 03-3438-0308

ウェブサイト <http://www.jraia.or.jp>

詳細情報はホームページ上で随時更新していきます

参加手続き
に関する
問合せ先

環境と新冷媒 国際シンポジウム 2014 (JRAIA SYMPO) 運営事務局

- 近畿日本ツーリスト株式会社 グローバルビジネス支店

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町 1-13 住友商事神田和泉町ビル 12階
TEL: 03-6891-9600 FAX: 03-6891-9599 E-mail: jraia2014-gbm@or.knt.co.jp

▶ <http://www.jraia.or.jp>

